

令和2年度 フロンティア科「出前講座」

- 1 日 時 令和2年7月3日（金） 13:50～15:50（120分）
- 2 講 師 慶明会
- 3 演 題 宮崎の福祉、医療について
- 4 感想

1年H組 松田 佳子

介護の話を初めて聞き、知らなかったことをたくさん知りました。やはり、一番気になったことは「2025年問題」です。「2025年問題」は介護だけにとどまらず、全職業に影響します。少子高齢化社会は、日本の平均寿命が上がるといううれしい結果である反面、これからの現役世代には、大きな税の負担や人材不足など、非常に困難な問題を引き起こします。介護においては、その影響はとても深刻です。高齢者の5人に1人が認知症になると言われるなかで、人材が足りず、安心した介護が受けられなかったり、介護施設不足になると「老老介護」や「認認介護」になります。私はこの2つの言葉を初めて聞きましたが、非常に衝撃を受けました。高齢者が認知症患者を介護するのも大変なのに、認知症患者が認知症患者を介護するのは考えられないことでした。でも、介護の人材が減っていくなかで、その可能性は十分にあり得ます。私たち1人ひとりが未来を救えるような職に就くことが必要だと思いました。

1年I組 脇坂 祐次郎

さくら苑の苑訓である「さくら苑は家庭であり、わたし達は家族である」という言葉はとても良い言葉だと思いました。慶明会の方々が入居者に対して、どういう態度で接しているのかが、すぐに分かる言葉です。慶明会は職員で交流したり、大会を行ったりしていて雰囲気のよさを知ることができました。慶明会の基本姿勢の1つである「人権を尊重」というのが1番大切なことだと思います。また現在2025年問題があります。この問題は高齢化が深刻化し、現役世代の負担が増えたり、空き家の増加や働く人が足りなくなったりすることです。この問題の対策は病気の予防、医療の発達などであることを知りました。最後にこれからの生活で大切なことを知りました。それは、人と協力することです。そのためには、信頼関係・話しやすい環境をつくるのが大切です。僕はまだ話したことがない人が多いので、他の人とたくさん話していこうと思いました。

